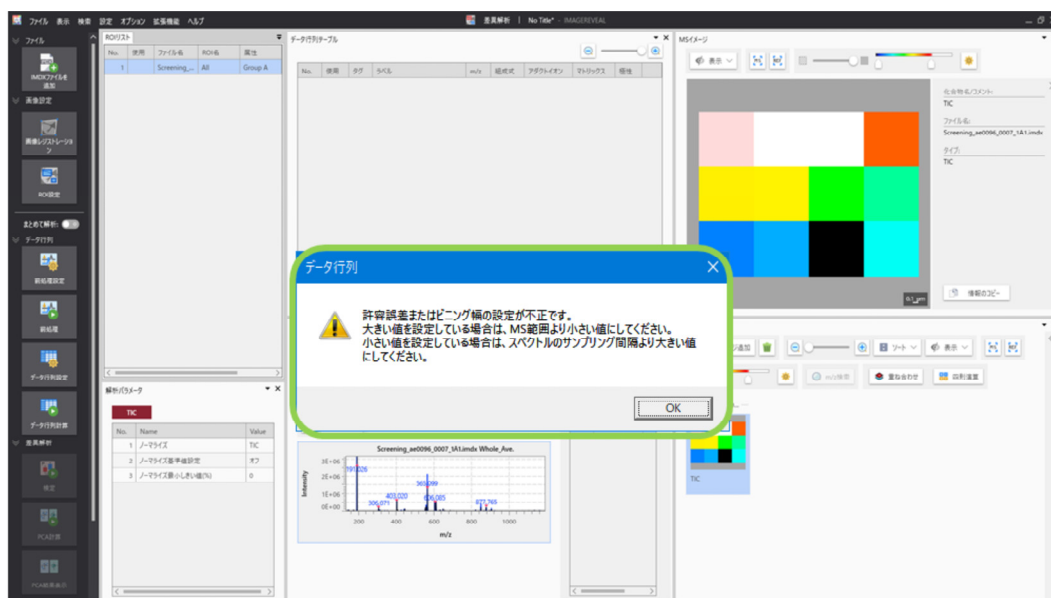


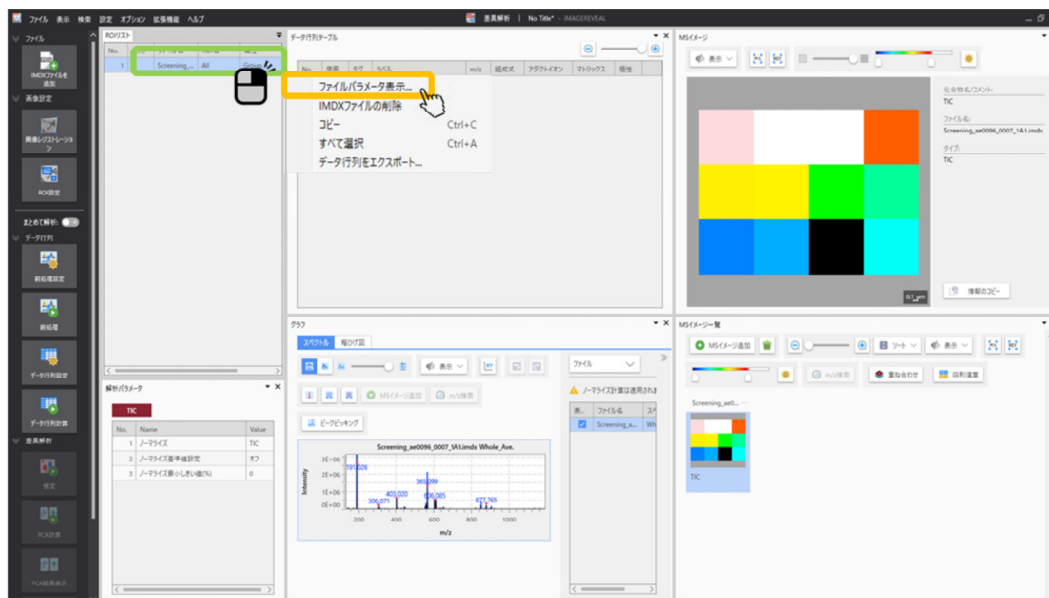
ノンターゲット解析で
bin幅に小さい値を入力できない

以下のエラーメッセージが表示されます



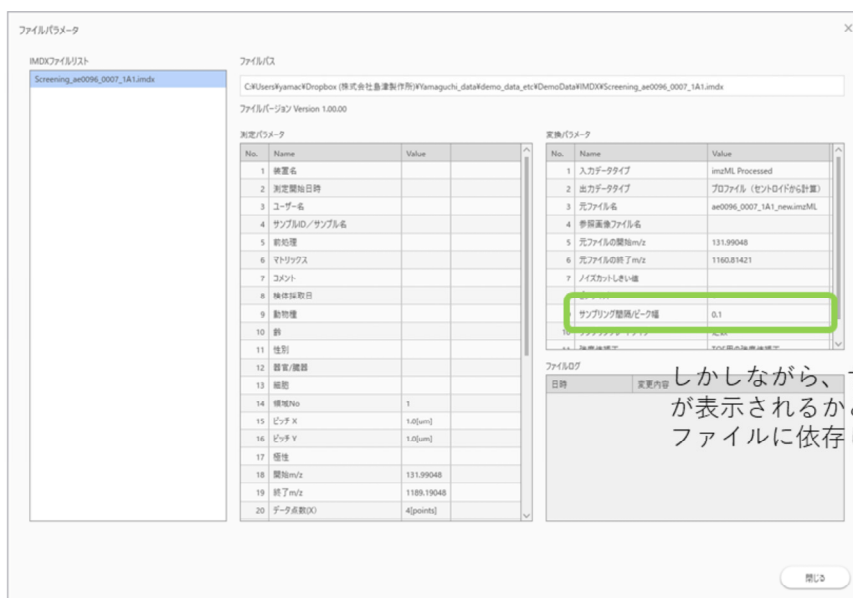
許容誤差またはビンニング幅の設定が不正です。
大きい値を設定している場合は、MS範囲より小さい値にしてください。
小さい値を設定している場合は、スペクトルのサンプリング間隔より大きい値にしてください。

サンプリング間隔の確認の仕方



ROIリスト内でデータファイルを選択して右クリックします。
“ファイルパラメータ表示”を選択します。

ファイルパラメータ



既定のパラメータ

No.	Name	Value
1	装置名	
2	測定開始日時	
3	ユーザー名	
4	サンプルID/サンプル名	
5	前処理	
6	マトリックス	
7	コメント	
8	検体採取日	
9	動物種	
10	餌	
11	性別	
12	飼育環境	
13	施設	
14	標識No	1
15	ピンチ X	1.0[mm]
16	ピンチ Y	1.0[mm]
17	感度	
18	開始m/z	131.99048
19	終了m/z	1189.19048
20	データ点数(D)	4[points]

変更のパラメータ

No.	Name	Value
1	入力データタイプ	imaML Processed
2	出力データタイプ	プロファイル (セントロイドから計算)
3	元ファイル名	ae0096_0007_1A1_newimgML
4	参照基準ファイル名	
5	元ファイルの開始m/z	131.99048
6	元ファイルの終了m/z	1160.81421
7	ノイズカットしきい値	
8	サンプリング間隔(秒)	0.1

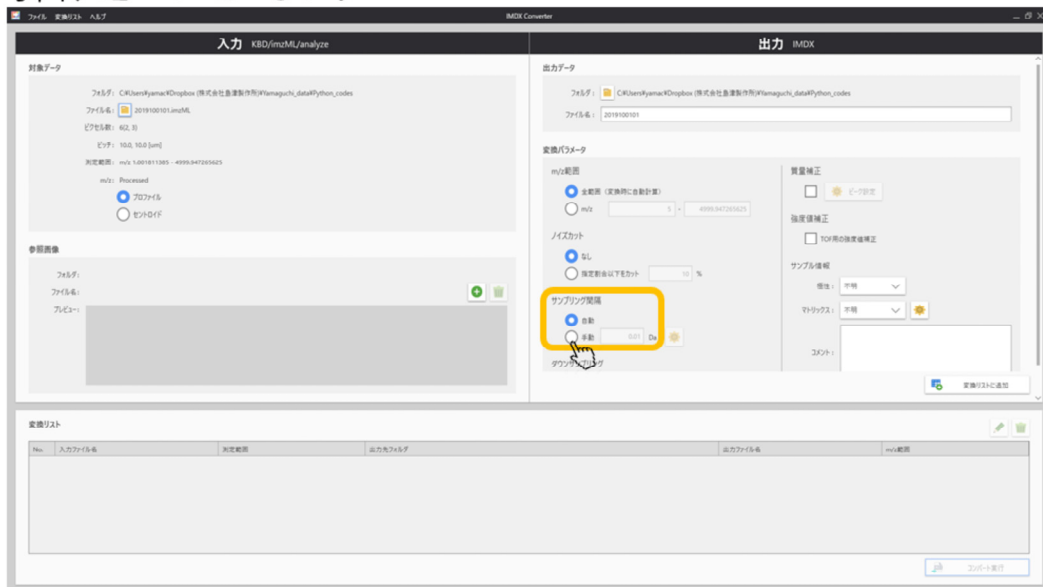
しかしながら、サンプリング間隔が表示されるかどうかはデータファイルに依存します。

しかしながら、サンプリング間隔が表示されるかどうかはデータファイルに依存します。

Bin幅の設定を変更することも可能です

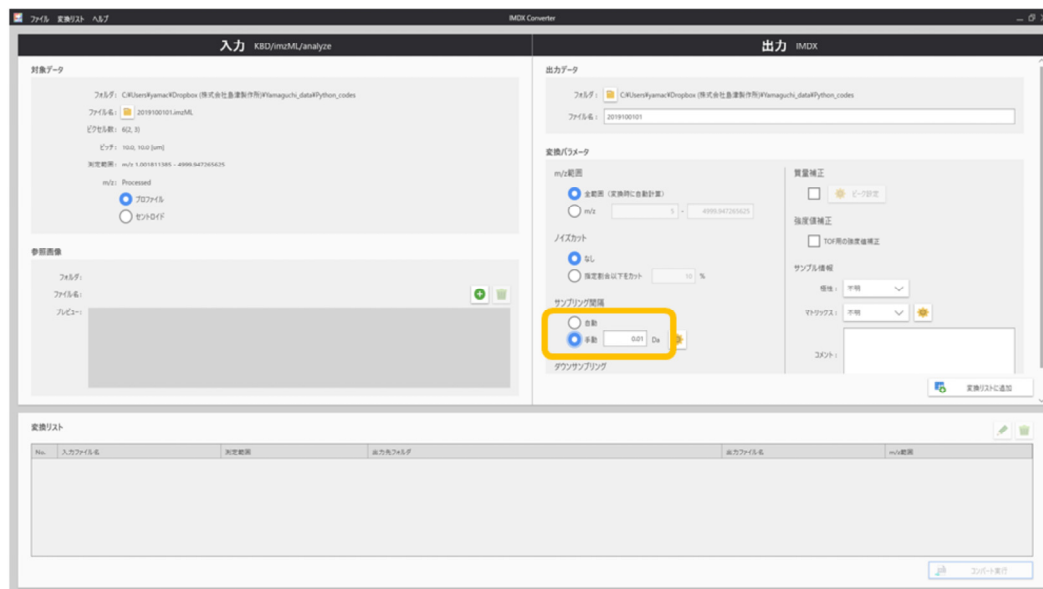


もしくはIMDXコンバーターでビンサイズを指定できます



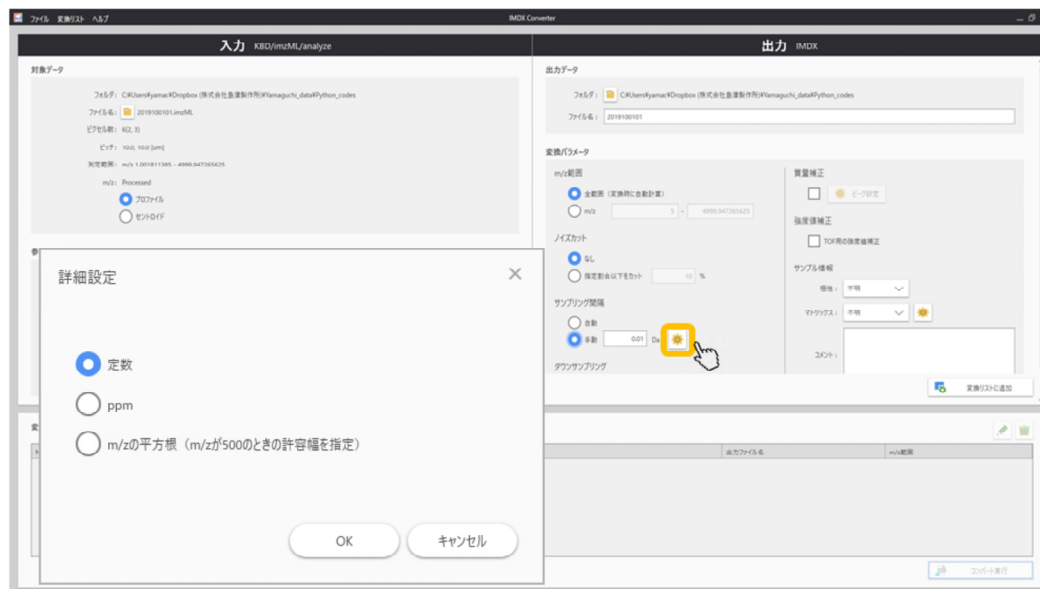
”サンプリング間隔”の手動をクリックします。

“手動”で”数値を入力してください



サンプリング間隔を設定できます

詳細設定



ここでも“詳細設定”を使用することができます